



つなぐしばさき つむぐ

令和3年度期待号 2021.5
コミュニティ・スクールかわら版
発行:立川市立第一小学校運営協議会

さあ あなたの出番です!

柴崎町には、児童館がありません。何故か？

立川市が新規に企画（施設や事業）を展開させる場合、最初に振るのが柴崎町です。市政が敷かれた時、市役所や警察署があった柴崎町ですから、まず顔を立てるのが慣例となっていたのでしょう。この気配りを現代用語では「付度」といいます。

で、児童館です。市役所は当然のように児童館第一号を柴崎町に計画したのです。ところが、地権者と長老たちが拒んだのです。「柴崎町に児童館など要らん。柴崎町の子どもたちは地域が守る!」。ちなみに、現在、8館ある中で一番古いのが富士見児童館で、1972年（昭和47年）の創設です。

思えば、わが立川一小も、1870年（明治3年）、地元の有力者である板谷元右衛門さんが私財を投じて設立した郷学校を発祥としています。柴崎町の地域力は、明治の始めから昭和にかけて脈々と受け継がれていたわけです。

では、時代が平成になり令和となった今、この地域力は、まだ力強く流れているのでしょうか？ 流れています。「一小わくわくクラブ」です。保護者力もちろんありますけれども、地域力がなければ、日曜・祝日を除く毎日、年間250日も活動できません。立川市内19校のうち、第2位の小学校の活動日数は108日です。なかには年間4日という小学校もあります。それぞれに学校・地域の事情があるやに思いますが、柴崎町では、長老の後輩への「お前ら、もっと子どもたちのために身を粉にして尽くせ!」という怒号が聞こえて来そうです。

そういえば、放課後子ども教室も、一小が立川市のモデル校として全校に先駆けてスタートさせたのでした。かように、学校や子どもたちに対する柴崎町の地域力は、現在も健全に生きています。

話は変わりますが……いや、変わりません。「学校運営協議会だより」(令和2年度・第4号)の繰り返しで恐縮ですが、一小は「第59回BCS賞」を受賞しています。その選評のなかに、こうあります。「この施設は次世代を担う子どもたちが使う小学校・学童保育所を軸に、地域の人々がレクリエーションの場・生涯学習の場として使う学習館・図書館から成り立っている。これらの施設は共用することができる機能を持ち、さらに複合化することで高機能化する内容もある。」

立川一小が、学童保育所や学習館、図書館との「共用」が円滑に進み、さらに「複合化」し「高機能化」するために必要なのは、今さら言うまでもありません、柴崎町の地域力です。地域力は継続して行ってこそ、さらに強固なものになります。さあ、あなたの出番です!

(伊藤真人)

一小 そして 柴崎を盛り立てよう

「しばさき」への熱い思い

「子どもたちは『立川の歴史を学ぶ』が奨励されているが、立川にある16の町は、それぞれの歴史を持っています。『立川の歴史』の一本でくくられると、それらの独創性が消されそうな気がします。郷土を愛すとは、立川でなく、柴崎町を愛することです。」

(中村恭之『学校運営協議会だより 令和2年度第4号』)

まずは「しばっこ」を育てよう

立川市教育委員会は、「立川市民科」を来年度から教科とすることを公表しています。詳細は不明ですが、中村さんの弁を借りるならば、まずは地元、すなわち柴崎に光を当てることが大切となります。学校でもそのような取組を深めるカリキュラム作りを進めつつあります。この構想の実現には、柴崎をこよなく愛する皆さまの支援が不可欠です。

柴崎には、強い地域力がある

「当時教委は(中略)そのようなことには一切触れず、特に新しく開校する七小の教室に余裕のあることと、一小的改築工事中の一時的に二部授業を解消するため、という表面上の理由により学区の変更を企画したのであって(中略)十月中旬、教委委員長より其の具体案を示されたのである。」

即ち

A案：柴四、五、六丁目を七小学区に変更する

B案：柴三(南口大通以東)、柴四東、柴六を七小学区に変更する

此の実施は昭和34年4月よりとする

その後の経過も含めた詳細については、150周年誌の「校舎改築を顧みて」をぜひお読みいただきたい。

今も一小が柴崎町の小学校として存立できているのは、このような先人の努力があったことを忘れてはならない。

あなたの支援を求めています

早速にお力添えをいただきたい項目をお示しいたします。多くの方々のお申し出をお待ちしています。

低学年…地域探検	商店訪問	やさい栽培	
中学年…おかしの生活	水辺の学校(根川でのガサガサ)	花壇作成	
高学年…柴崎の歴史	柴崎巡り	等	

(たわごと)

「1学級の人数が、校内で一番多い学年となったことを、『多くの友達によさに気付き成長できるチャンスが得られた』と、一年後感じてもらえるよう、精一杯努めます」(3年生学年だより) 力強い決意表明に敬意です。でもあと5人いれば3学級だったのに、と思ってしまうのは私だけでしょうか。

「81、95、84、99、83、78、79(出典:毎年度学事報告)、66」

これは、平成26年度以降の1年生の児童数です。ここから皆さんは何を思われますか。「こんなに家がある地域なのに、なぜ?」、これが率直な私の感想です。(撰梅正人)

皆さんの投稿(ご感想・ご意見・ご提言等)をお待ちしています。ぜひお寄せください。

投稿
第一小学校の魅力

- ・校舎がおしゃれ
- ・自校式給食
- ・伝統と歴史ある学校
- ・立川の中心に位置する
- ・先生方の手厚い支援

現保護者の方から出た意見です。

今年度は、是非

「学校・保護者・地域が連携して学校運営を行っている」

「地域の方々の協力で子どもたちが様々な経験ができる」

「柴崎町の地域力が魅力」

このような意見がたくさん出るよう、学校運営協議会も盛り上がっていきたいと思います。

副校長先生投稿いただけたら。

発行：立川市立第一小学校 学校運営協議会

ご意見、ご感想、ご質問等ありましたらお寄せください。

第一小学校 副校長 丹野 優子 / 副校長補佐 撰梅 正人

